

基本目標2 緑豊かで、住んでいて心地よく、人と自然が共生するまちをつくる

本市は、山々に囲まれ、猪苗代湖や阿賀川とそれを支える河川が流れ、豊かな田園が広がるなど自然環境や水資源に恵まれた地域です。

また、猪苗代湖は水源としての利用はもちろん、湖水浴やキャンプなどレジャーにも活用され、人と自然が共生してきました。

これらの森林や水辺などには、貴重な野生動植物や様々な生物が生息・生育していることから、貴重な自然環境を守り、生態系の多様性を確保する必要があります。

そのため、多様な生態系を守る活動を推進するとともに、市民と協働のもと、緑化などの良好な環境の保全活動を推進し、人と自然が共生するまちをつくりまします。

- 個別目標2-1 豊かな自然環境を守り、育てるまち
 個別目標2-2 美しい里山と農地を守り、活かすまち
 個別目標2-3 猪苗代湖の水環境を守り、次代に引き継いでいくまち
 -猪苗代湖水環境保全推進計画-



環境目標 令和3年度実績

個別目標	環境目標	目標値と実績値				R3実績値の評価・分析	
		現状値	実績値		目標値	前年度との比較	目標値達成状況
		H24	R2	R3	R5		
2-1	森林施業面積	1,347ha	1,999ha	2,092ha	2,267ha	↗	
	自然環境や動植物の保護を行う市民の割合	21%	(H30) 10.5%	(H30) 10.5%	60%	—	
2-2	環境保全型農業直接支援対策事業の対象面積	(H27) 5,987a	7,580a	9,350a	(R8) 7,000a	↗	達成
	担い手に集積された農用地の面積割合	59.1%	76.8%	78.2%	(R8) 78%	↗	達成
2-3	農業集落排水施設水洗化率	赤井： 97.0% 共和： 90.4%	赤井： 98.9% 共和： 94.0%	赤井： 98.8% 共和： 94.7%	赤井： 100% 共和： 94.8%	↗	
	高度処理型浄化槽の普及率	25.9%	32.9%	35.6%	45%	↗	
	猪苗代湖・流域清掃活動参加者数	514名	0名	0名	600名	→	

個別目標	環境目標			目標値と実績値				R3実績値の評価・分析	
				現状値	実績値		目標値	前年度との比較	目標値達成状況
				H24	R2	R3	R5		
2-3	猪苗代湖及び流入河川の水質	中田浜	COD	0.7mg/ℓ	1.1mg/ℓ	1.2mg/ℓ	0.7mg/ℓ以下	↘	
			全窒素	0.18mg/ℓ	0.20mg/ℓ	0.23mg/ℓ	0.2mg/ℓ以下	↘	
			全リン	0.011mg/ℓ	0.004mg/ℓ	0.004mg/ℓ	0.01mg/ℓ以下	→	達成
		赤井川	BOD	1.4mg/ℓ	1.1mg/ℓ	1.0mg/ℓ	1.2mg/ℓ以下	↗	達成
			全窒素	1.24mg/ℓ	0.85mg/ℓ	0.88mg/ℓ	1.1mg/ℓ以下	↘	達成
			全リン	0.093mg/ℓ	0.095mg/ℓ	0.045mg/ℓ	0.08mg/ℓ以下	↗	達成
		原川	BOD	0.8mg/ℓ	0.5mg/ℓ	0.6mg/ℓ	0.8mg/ℓ以下	↘	達成
			全窒素	0.53mg/ℓ	0.40mg/ℓ	0.50mg/ℓ	0.5mg/ℓ以下	↘	達成
			全リン	0.031mg/ℓ	0.018mg/ℓ	0.020mg/ℓ	0.03mg/ℓ以下	↘	達成

評価

自然環境関連の環境目標については、全体的に良化傾向にあります。とくに、猪苗代湖の流入河川の水質は近年良化傾向にあり、令和3年度もおおむね良好な環境が維持されていますが、他方、改善が見られていない指標もあります。

人と自然が共生するまちをつくるため、引き続き、市民や事業者の皆様、県及び関係自治体との連携・協働のもとに、森林や里山の保全、生物多様性の確保、猪苗代湖の水環境の保全に取り組んでいく必要があります。



環境施策 令和3年度取組実績

個別目標2-1 豊かな自然環境を守り、育てるまち

◇生態系に配慮した土地利用を行います

実施事項〔担当所属〕	事業概要	R3年度事業実績
水路工事 〔農林課〕	・農村地域の環境改善を目的として集落内の生活排水路などを整備する。	・水生生物に配慮した水路の維持管理を行った。
会津若松市開発行為等指導要綱に基づく緑化等の指導 〔開発管理課〕	・公園等の設置に対する指導（開発区域面積が3,000㎡以上である場合、区域の3%以上）。	・開発許可件数 14件（新規10件 変更4件） ・うち緑地及び緑化施設設置件数 新規3件、変更1件

◇森林の保全と活用を図ります

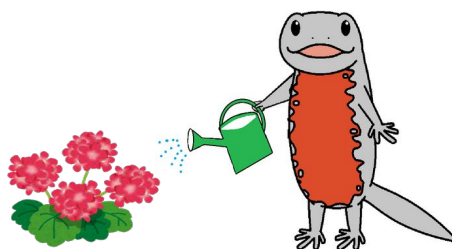
実施事項〔担当所属〕	事業概要	R3年度事業実績
森林整備地域活動交付金事業 〔農林課〕	・森林整備地域活動支援事業により、森林経営計画の策定に向けて、林業事業者が行う森林所有者の合意形成等を支援する。	・交付金の交付はなかったが、森林情報提供などの準備作業への支援を行った。
治山事業 〔農林課〕	・自然災害等による森林の復旧を図る。 ・保安林整備事業等により保安林の整備と、荒廃森林の復旧を図る。	・大戸町大字芦牧峠地区の復旧に向け、県において詳細設計を行い、工事を発注した。
林業専用道整備事業 〔農林課〕	・林業専用道舟子峠線を開設し、森林施業に供することで森林整備を図る。	・施工延長 199.8m
森林病虫害等防除事業 〔農林課〕	・湊町ほか保全すべき森林における松くい虫等の被害を鎮静化させるため、伐倒や薬剤注入等により駆除を行う。	・伐倒駆除 108本 ・材積 77.05㎡
会津若松市建築業森林ボランティア、森林環境ボランティア 〔農林課〕	・会津若松市建築業森林ボランティア、森林環境ボランティアを活用し、森林づくりを推進する。	・新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。

◇豊かな緑と水辺地を保全、創出します

実施事項〔担当所属〕	事業概要	R3年度事業実績
赤井谷地保存整備事業 〔文化課〕	・国指定天然記念物赤井谷地沼野植物群落の保護及び湿原回復のため、水環境調査・植生調査を行う。 ・保存管理指導会議を開催し、湿原回復の方策や今後の活用方針を検討する。 ・湿原保護への理解を深めるため、市民向けの散策会を実施する。	・水環境調査（6月～11月）、植生調査（10月）を実施した。 ・指導会議（2月）を開催し、今後の対応等について検討した。 ・市内の小学生と保護者を対象とした観察会（10月11名）を開催した。
文化財整備事業 〔文化課〕	・国指定天然記念物高瀬の大木を後世に残すために病虫害の防除や施肥等の保存整備を行う。	・保存整備（2月～3月、施肥、枯枝処理、木道修繕）を実施した。

実施事項〔担当所属〕	事業概要	R3年度事業実績
自然景観指定緑地の指定 〔都市計画課〕	・景観形成上、重要な森林や樹木、緑地等を自然景観指定緑地として指定、支援することにより、自然資源の保全を図る。	・指定緑地 0件 ・登録緑地 0件 ・維持管理費等助成 10件
花と緑の推進事業 〔まちづくり整備課〕	・花苗生産基地において、花苗を生産する。 ・庁舎・学校等の公共施設に花苗を配付し緑化美化を図る。	・花苗生産基地において、49,844本花苗を生産し、99箇所の庁舎・学校等の公共施設に花苗を配付し緑化美化を図った。
福島県自然公園清掃協議会への加入 〔観光課〕	・自然公園内の美化清掃事業及びその思想の啓蒙・普及活動を行う。	・福島県自然公園清掃協議会による清掃委託を実施した。 ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、クリーンアップ作戦等が中止となった
国土緑化推進事業 〔農林課〕	・森林資源の造成と国土保全並びに水資源のかん養を図り、以って国土緑化に寄与することを目的とし、事業を行う。	・各事業参加人数 のべ60人 (エコカル子どもクラブ 36人) (グリーンスクール 24名)
緑の基本計画進行管理 〔まちづくり整備課〕	・緑化施策の指針として活用し、市内の緑化を推進する。	・進行管理を継続して実施した。
公共施設での緑化 〔市民課〕	・斎場敷地内の緑化の維持管理を行う。	・斎場敷地内の緑化の維持管理を実施した。
基幹集落センター等の緑化 〔農政課〕	・基幹集落センター及び北会津農村環境改善センターにおいて、業務委託により年2～3回、樹木の手入れや草刈り等の緑地保全事業を実施する。	・基幹集落センター及び北会津農村環境改善センターにおいて、業務委託により年2～3回、樹木の手入れや草刈り等の緑地保全事業を実施した。
水源周辺の清掃 〔上水道施設課〕	・水源周辺の清掃及びパトロールを実施する。	・東山ダム周辺や湯川上流のパトロールを水源原水採水時に実施した。
市場の緑化 〔農政課〕	・指定管理者において、市場内花壇への花苗の植付及び空地の草刈りを実施する。	・市場内花壇への花苗の植付及び空地の草刈りを指定管理者である(一社)会津若松市公設地方卸売市場協会によって実施した。
児童館や保育所施設の緑化 〔こども保育課〕	・児童館・保育所において、花壇などの緑化に努め、児童や保護者、地域住民の意識高揚を図る。	(児童館) ・利用児童による花苗栽植(80本) (広田保育所) ・保護者や児童による花苗栽植(800本) ・2歳以上児クラスの栽培活動(中央保育所) ・児童による栽培活動(200本)
ノーマライズ交流館の緑化 〔障がい者支援課〕	・障がい者優先調達推進法を利用して植栽の整備を行うとともに、花壇への新たな花苗の植栽などを検討する。	・市より支給されたプランターを並べて緑化に取り組んだ。また、たんぼぼ園の庭への植栽及び植木の剪定により、緑地の維持に取り組んだ。
下水浄化工場の緑化 〔下水道施設課〕	・豊かな緑を創出するため、下水浄化工場の玄関付近をプランターの花で飾る。	・下水浄化工場で作成しているコンポストを使い、浄化工場の玄関付近をプランターの花で飾った。

実施事項〔担当所属〕	事業概要	R3年度事業実績
公営住宅の緑化 〔建築住宅課〕	・豊かな緑を創出するため、公営住宅等の施設整備において敷地内の緑化を推進する。	・城前団地第4期の植栽工事において、野芝及びドウダンツツジの植込みを取り入れ、整備を図った。
施設等の緑化 〔上下水道局総務課〕	・庁舎敷地内の緑化の維持管理を行う。	・令和2年度下水道課との組織統合により花壇が取り壊しとなったため実施なし。
公共施設での緑化 〔上水道施設課〕	・浄水場内での緑化を図る。	・滝沢浄水場と東山浄水場において、場内の除草及び花苗の管理を実施した。
ふれあい体育館等の緑化 〔スポーツ推進課〕	・緑化の充実を図るため、ふれあい体育館等の花壇を整備する。	市民・施設利用者・指定管理者の協働による「花と緑のサポーター活動」を4回実施した。
庁舎の緑化 〔北会津支所まちづくり推進課〕	・庁舎の花壇及びプランターに花苗を植栽し、庁舎の緑化に努める。	・プランターに花苗を植栽し、庁舎出入口等に設置した。 ・庁舎の花壇に花苗を植栽した。 ・雑草、落葉の処理を定期的に行った。
庁舎の緑化 〔河東支所まちづくり推進課〕	・庁舎周辺の花壇等に花苗を植栽し、支所の緑化に努める。	・庁舎周辺の花壇へ花を植栽して管理を行うなど、緑化事業を実施した。
国土緑化推進委員会事業 (植樹祭・公共施設等緑化事業) 〔農林課〕	・植樹を通して市民の方々に緑化の重要性を認識していただき、併せて緑化思想の高揚と市民生活環境の向上に寄与する。 ・公共施設、自然緑地、公園等を緑化する団体等へ緑化苗木や花苗を無償配布する。	・第70回植樹祭実施、参加者82名 ・公共施設等緑化推進事業の実施、8団体へ苗木、花苗配布
国際的ふるさと会津創生事業 〔まちづくり整備課〕	・町内会等との連携により公園・緑地の維持管理を実施する。	・町内会等との連携により公園・緑地の維持管理を実施した。
景観まちづくり協定地区等における緑化等の支援 〔都市計画課〕	・協定地区等の緑化を支援することにより、まちなかの緑を保全、推進する。	・公開空地の緑化等に対する助成0件(利用申請がなかったため)
都市公園緑地等整備・維持管理事業 〔まちづくり整備課〕	・都市の環境及び安全性の向上を図り、市民の活動や憩いの場を形成するため、良好な維持管理に努めるとともに、必要に応じ施設整備を行う。	・公園内の樹木管理や施設改修・維持補修等を実施し、市民の憩いの場として利用できるよう環境整備を図った。
まちなみ環境整備事業 〔まちづくり整備課〕	・都市計画道路会津若松駅中町線の美装化(道路改良)の整備を行う。	・会津若松駅中町線道路改良工事 L=55.3mを実施した。



◇野生生物を適正に保護します

実施事項〔担当所属〕	事業概要	R3年度事業実績
野生生物生息環境保全事業 〔環境生活課〕	・野生生物生息環境調査を行い、生息環境の保全に努める。 ・身近な生き物基本調査会議を開催し、意見を野生生物の保護に役立てる。 ・ホームページや市政だよりに生き物についてのコラムを掲載し、市民の野生生物保護についての意識啓発を行う。	・野生生物生息環境調査を行った。 ・身近な生き物基本調査会議を開催し、市の環境保全事業や市内での開発行為に対する意見を得た。 ・ホームページへの情報を掲載したほか、市政だよりにより毎月コラムを掲載した。
文化財整備事業 〔文化課〕	・県指定天然記念物白山沼のイトヨ生息地の環境保全のため、イトヨ生息数等の生態調査を行う。	・イトヨの生息数及び水質調査(10月)を実施した結果、昨年と比較し確認個体数は減少傾向にあるため、今後も経過観察が必要である。
阿賀川河川環境整備事業 (水辺の楽校) 〔まちづくり整備課〕	・市民が快適に利用できるよう指定管理者による維持管理を継続して実施する。	・市民が快適に利用できるよう指定管理者による維持管理を実施した。

みんなで守ろう！生物多様性

「生物多様性」とは、陸、空、海、河川、森林など、地球全体に多様な生物が存在していることを指します。

地球上の生きものは40億年という長い歴史の中で、さまざまな環境に適応して進化し、3,000万種もの多種多様な生きものが生まれました。これらの生きもの一つひとつに生命と個性があり、わたしたち人類も含め、全ての生きものが直接的又は間接的に支えあって生きています。

わたしたち人類は、わたしたちのいのちと暮らしを支えてくれるこの豊かな生物多様性を守り、次世代につなげていかなければなりません。



地球は鳥や魚や昆虫、草木、花、そして僕たち動物たちなど、全てがつながって成り立っているんだね。



個別目標2-2 美しい里山と農地を守り、活かすまち

◇里山を保全します

実施事項〔担当所属〕	事業概要	R3年度事業実績
背炙山公園野草ゾーン整備事業 〔まちづくり整備課〕	・市民が快適に利用できるよう野草ゾーンの除草等の維持管理を含め、指定管理者による管理を実施する。	・指定管理者による維持管理を継続して実施した。
ボランティアによる下刈り等の実施 〔農林課〕	・一般市民を対象としたボランティアによる下刈り等を実施する。	・新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。
保安林の整備 〔農林課〕	・国土防災、自然環境の維持から森林の有する多面的機能の高度発揮を目的に積極的に保安林の指定・整備を図る。	・市で直接整備は行っていないが、県事業に対する協力・支援を行った。

◇農地を保全します

実施事項〔担当所属〕	事業概要	R3年度事業実績
中山間地域等直接支払事業 〔農政課〕	・農地の耕作放棄地の発生防止に努めるとともに、適切な農業生産活動（草刈・道水路管理）を通じて環境にも配慮するよう指導する。	・農地の耕作放棄地の発生防止に努めるとともに、適切な農業生産活動（草刈・道水路管理）を通じて環境にも配慮するよう指導した。 ・取組集落数 13集落 ・取組面積 196ha
耕作放棄地解消対策 〔農政課〕	・耕作放棄地の引き受け手となる農業者の確保に努め、引き受け手が確定したのち、順次、福島県農村地域活性化事業補助金を活用して再生作業を実施する。	・地域の担い手農業者等により再生作業が行われた。 ・再生面積 48,395㎡ （調査区分の変更による異動を含む） ・作付け作物等 保全管理、一般野菜等
多面的機能直接支払事業 〔農政課〕	・農業・農村の持つ多面的機能の維持のため、各集落が行う農用地の草刈や水路の泥上げ等の共同活動を支援する。	・活動組織に対し交付金を交付し、共同活動の支援を行った。 ・活動組織数 99組織 ・取組面積 4,415ha
遊休農地の解消 〔農業委員会事務局〕	・農地法第30条の規定に基づき毎年1回管内の農地の利用状況についての調査を行い、耕作が放棄されている農地や非農地化した荒廃農地に分類し、新たに遊休化した農地や、過去に指導し改善されない遊休農地の所有者に対し、利用意向調査を実施しながら指導・勧告等を行うことで、遊休農地の発生防止に努める。	・8～9月に実施した利用状況調査の結果、遊休農地の分類・集計方法が変更になったこともあり8.3haの遊休農地が新たに確認されたが、前年11～12月に実施した利用意向調査に伴う委員による解消指導や地権者の努力等により8.6haが解消された。これにより、令和元年度当初に確認されていた30.1haの遊休農地は29.9haに減少した。
基盤整備事業 〔農林課〕	・優良農地の区画整理と農業者の収益向上やコスト縮減を目的とする。	・動植物等の保護を目的とする生息に配慮した施設の計画、整備を行った。

実施事項〔担当所属〕	事業概要	R3年度事業実績
環境保全型農業直接支払事業 〔農政課〕	・化学肥料・化学合成農薬を5割以上低減する取組と合わせて、地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動を行う組織に対して支援を行い、環境にやさしい農業の推進を図る。	・環境保全に効果の高い営農活動を行う活動組織に対して交付金を交付し、地球温暖化の防止や生物多様性保全に資するための取組の推進を図った。 ・活動組織数 6組織

◇農業・農村体験ができる場をつくります

実施事項〔担当所属〕	事業概要	R3年度事業実績
グリーンツーリズム支援事業 〔農政課〕	・農業農村体験の受入態勢整備、PR活動による受入れを行う。	・農業農村体験の受入態勢整備では11月16日に市内歴史探訪を行い会員5名、オブザーバー2名、事務局3名、ガイド1名が参加した。PR活動では7月31日に親子でトマト収穫体験を行い20名が参加した。また、11月27日に親子で糲摺り・精米体験を行い、21人が参加した。
子どもの森整備 〔生涯学習総合センター〕	・市民の身近な自然に親しめる場所として、敷地内の環境の整備を継続する。 ・主催講座の実施により、子供たちの豊かな情操教育と自然学習の支援を行う。	・子どもの森の管理人及びボランティアサポーター（登録数10名）が主体となり、環境整備に努めている。また、センター職員も定期的に巡回し現況確認と情報交換を実施し環境改善に努めた。 ・主催講座は10月22日（土）に実施した。この事業を通して子どもの森を利用する機会を提供するとともに市内の幼稚園・保育園、小学校などへ利用の広報を行うことができた。
小田山公園の整備 〔まちづくり整備課〕	・公園巡視を行うとともに、給水施設等の維持管理を行う。	・給水施設の修理と維持管理を継続して実施した。
七日町市民広場の整備 〔観光課〕	・七日町市民広場の管理、利活用の促進を行う。	・七日町市民広場の維持管理を行い、市民への貸し出しを実施した。
市民農園等設置運営事業 〔農政課〕	・市民農園の貸し出しにより市民が実際に農作業を体験する機会を創出し、農業や自然環境、食に対する理解を深める。	・農作業の体験などを通して自然環境や農業への理解を深めた。 ・市民農園 76区画 ・ふれあい農園 53区画
自然環境教室の開催 〔環境生活課〕	・市民を対象に自然環境教室を年3回開催し、市民の自然環境保護、野生生物保護に関する意識の醸成を図る。	・8月、11月にそれぞれ自然環境教室を開催し、計48名参加した。いずれの回もアンケートなどによる参加者の満足度は高かった。 ・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、2月の開催は見送った。

実施事項〔担当所属〕	事業概要	R3年度事業実績
森林浴 〔農林課〕	・会津東山自然休養林内の遊歩道を探索し、自然観察や野鳥観察を盛り込んだ森林浴を実施する。	・実績なし ※令和元年6月のツキノワグマによる人身被害発生に伴い、石山遊歩道外3路線を通行止めに行っている。

個別目標2-3 猪苗代湖の水環境を守り、次代に引き継いでいくまち
-猪苗代湖水環境保全推進計画-

◇自然汚濁・面的汚濁を低減します

実施事項〔担当所属〕	事業概要	R3年度事業実績
森林環境基金森林整備事業 〔農林課〕	・森林環境税を財源とした基金により、スギ等の人工林の間伐事業を実施する。	・市内各地区の間伐 36.76ha (内訳) 湊町原 19.79ha 大戸町桑原 11.56ha 大戸町小谷 5.41ha
エコファーマー認定制度 〔農政課〕	・堆肥等を活用した土づくりと化学肥料・農薬使用の低減に一体的に取り組む農業者をエコファーマーと認定し、環境と調和した生産を推進する。	・堆肥等を活用した土づくりと化学肥料・農薬使用の低減に一体的に取り組む農業者をエコファーマーと認定し、環境と調和した生産を推進した。

◇人為汚濁を低減します

実施事項〔担当所属〕	事業概要	R3年度事業実績
農業集落排水事業 個別生活排水事業 (高度処理) 〔下水道施設課〕	・湊町区域における農業集落排水事業の接続促進を図る。 ・湊町区域における個別生活排水事業の整備促進を図る。	・湊町区域における農業集落排水事業の接続率 赤井地区 98.8%、共和地区 94.7% ・湊町区域における個別生活排水事業の整備基数 5基
湊四浜環境整備事業 〔観光課〕	・湊四浜湖水浴場の安全管理と整備を行う。	・崎川浜の公衆便所浄化槽の整備、維持管理を行った。

◇水辺環境の保全・整備促進を図ります

実施事項〔担当所属〕	事業概要	R3年度事業実績
環境美化推進事業 〔廃棄物対策課〕	・地区環境美化推進協議会の支援や補助及び清掃指導員と生活環境保全推進員による指導・啓発により、環境の保全を図る。	・各地区環境美化推進協議会(18地区)に対し補助金を交付し、活動の支援を実施した。
ビーチクリーナーによる湖岸清掃 〔環境生活課〕	・猪苗代湖環境保全推進連絡会により、猪苗代湖湖岸の環境美化を図るため、砂浜の清掃を実施する。	・猪苗代湖環境保全推進連絡会において、崎川浜・中田浜・小石ヶ浜の清掃を行った。(延べ3回)

◇市民参加による水環境保全活動の活性化に努めます

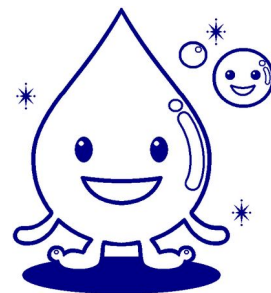
実施事項〔担当所属〕	事業概要	R3年度事業実績
猪苗代湖環境保全推進事業 〔環境生活課〕	・本市の水資源及び観光資源として重要な猪苗代湖の水環境の保全に向け、福島県及び関係市町村並びに関係機関・団体と連携しながら、水環境保全対策を進める。	・猪苗代湖岸クリーンアップは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。 ・県や猪苗代湖・裏磐梯湖沼水環境保全対策推進協議会主催の湖岸清掃やヨシ刈り、ヒシ刈りのボランティアについて参加を呼びかけるとともに、主催本部に参加した。

◇水環境保全思想の啓発促進、地域交流・水文化の形成に努めます

実施事項〔担当所属〕	事業概要	R3年度事業実績
猪苗代湖の水環境講座の実施 〔環境生活課〕	・猪苗代湖の自然の浄化作用等の学習により、猪苗代湖の水環境保全に対する意識の向上を目的とする。	・湊小学校で2回の出前講座を開催した。
シンポジウム、セミナー等の開催 〔環境生活課〕	・猪苗代湖及び裏磐梯湖沼群流域の水環境保全に係る情報の共有、意識の高揚を図り、流域における水環境保全活動を推進する。	・猪苗代湖・裏磐梯湖沼水環境保全対策推進協議会主催の水環境フォーラムに参加し、猪苗代湖環境保全推進連絡会主催の子ども交流会（会津若松市開催）で各小学校の活動報告をまとめた。

◇水環境保全に関する調査研究等の充実に努めます

実施事項〔担当所属〕	事業概要	R3年度事業実績
猪苗代湖流入河川水質調査事業 〔環境生活課〕	・継続して主要河川及び猪苗代湖流域での水質調査を実施し、水環境の現状を確認するとともに、調査結果の公表を行う。	・計画通り年間10回の水質調査を実施した。結果については概ね基準を満たしていた。 ・令和2年度の調査結果について公表を行った。



水環境キャラクター
みずくん、たまちゃん

特集 「野生生物生息環境保全事業」

(担当課：環境生活課)

本市は背あぶり山や猪苗代湖などの豊かな自然に恵まれており、たくさんの生き物たちが生息する豊かな生態系が築かれています。

市では、豊かな自然を将来に引き継いでいくためには、生き物を知り、その環境を守ることが大切であると考え、以下の事業を実施しています。

1 野生生物生息環境調査

市内の野生生物の生息環境の変化について、市内25地点を調査しています。令和3年度の調査では、特に大きな変化は見られませんでした。

2 自然環境教室

自然観察を通じて身近な自然の大切さについて理解していただくために、年3回自然環境教室を開催しています。(開催内容については、「各種環境教室・環境講座・生涯学習出前講座の実施」(92～93ページ)を参照。)

3 ホームページ等での啓発

身近に生息している生き物について知る機会を増やすために、平成17年度より、ホームページ上に「身近な生き物大図鑑」を掲載し、市内に生息する生き物約600種類を紹介しています。

また、平成27年度からは生き物についてのコラムを掲載し、季節の生き物の特徴や生態について解説しているほか、市が毎月発行している「市政だより」にも身近な生き物を紹介する記事を掲載しています。



身近な生き物大図鑑
市ホームページのトップページ

4 身近な生き物基本調査会議の開催

生き物の各分野における専門的な知識を有する方々(身近な生き物基本調査会議委員)により構成される会議であり、本市の身近な生き物の生息状況や生態情報、市の啓発事業等、生き物に関することについて、専門的な立場からご意見をいただいています。

【身近な生き物とは…】

市内で確認された哺乳類、鳥類、は虫類、両生類、魚類、昆虫類、植物の中から、「会津若松市身近な生き物基本調査会議」で、下記の2つの基準で約600種の生き物が選定されています。

- (1) 市内での生息が確認されている生き物
- (2) 市民が比較的容易に見ることができ、わかりやすい生き物。
または季節感の指標となる生き物(ウグイスやアブラゼミなど)など市民の生活につながりのある生き物。



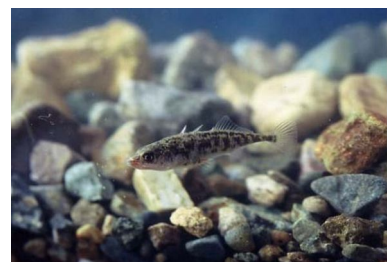
ニホンリス



ミヤマクワガタ



アカハライモリ



イトヨ

特集 「猪苗代湖環境保全推進事業」

(担当課：環境生活課)

1 猪苗代湖岸一斉クリーンアップ作戦と水環境講座

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催を中止

2 猪苗代湖環境保全推進連絡会の取組

①ビーチクリーナーによる湖岸清掃

- 実施期間：令和3年4月～令和3年11月
- 実施箇所：猪苗代湖の各浜
- 実施日数：延べ30日

②ヨシ屑や流木等湖岸堆積物の除去

- 実施期間：令和3年4月～8月
- 実施箇所：青浜、志田浜、上戸浜



ビーチクリーナーによる湖岸清掃

③子ども交流会

書面等による情報交換を実施

- 通知月日：令和3年12月20日
- 内 容：郡山市立湖南小学校、猪苗代町立翁島小学校、会津若松市立湊小学校の児童による猪苗代湖の環境保全に関する活動報告

3 猪苗代湖・裏磐梯湖沼水環境保全対策推進協議会の取組み

①猪苗代湖クリーンアクション

- 開催日：令和3年7月10日
- 場 所：猪苗代湖舟津浜
- 参加者：24名
- 内 容：ごみ、ヨシくずの回収

②猪苗代湖・裏磐梯湖沼水環境保全フォーラム

- 開催日：令和3年11月26日
- 場 所：猪苗代町体験交流館（学びいな）
- 参加者：90名
- 内 容：猪苗代湖・裏磐梯湖沼フォトコンテスト表彰式

4 紺碧の猪苗代湖復活プロジェクト会議の取組

○ヒシ回収

- 実施時期：令和3年7月～9月
- 実施場所：猪苗代湖北岸部
- 参加者：370名（延べ人数）
- 回収量：約42トン

5 NPO法人「輝く猪苗代湖をつくる県民会議」の取組

○漂着水草回収

- 実施期間：令和3年10月～11月
- 参加者：909名（延べ人数）
- 回収量：128m³

6 猪苗代湖流入河川等水質調査

本市では、猪苗代湖及び流入河川の水質を把握するため、昭和59年度から水質調査を実施しています。赤井川、原川、猪苗代湖（中田浜）の3地点について毎月1回（1、2月は除く）実施しています。

猪苗代湖（中田浜）の水質は、他の河川や湖沼と比べ大変良好な水質であるといえますが、平成になる頃からpHが上昇して中性化しており、CODと総リンも上昇する傾向にあります。

猪苗代湖の流入河川である赤井川と原川の水質は良好で安定していますが、水田の代掻きや田植えの影響と考えられる水質の悪化が一時期発生します。

(関連資料：109ページ 資料9)

市では今後も継続して水質調査を実施し、猪苗代湖の水質保全に努めていきます。

～ ひとくちメモ ～

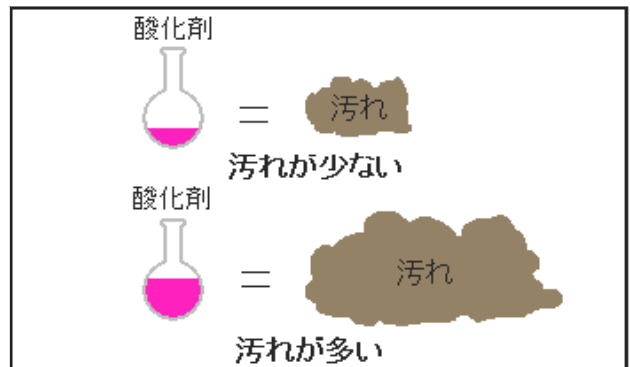
■BOD（生物化学的酸素要求量）

河川等の有機物による汚れを表す指標で、水中の有機物の微生物が分解（酸化）する際に消費する酸素の量を測定することで、間接的に水の汚れを測定することができます。数値が大きいほど汚れが大きいことを示します。

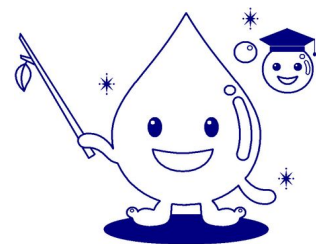


■COD（化学的酸素要求量）

主に有機物による水の汚れを示す指標で、有機物を酸化分解するのに使われた酸素の量に換算したもので、数値が大きいほど水が汚れていることを示します。

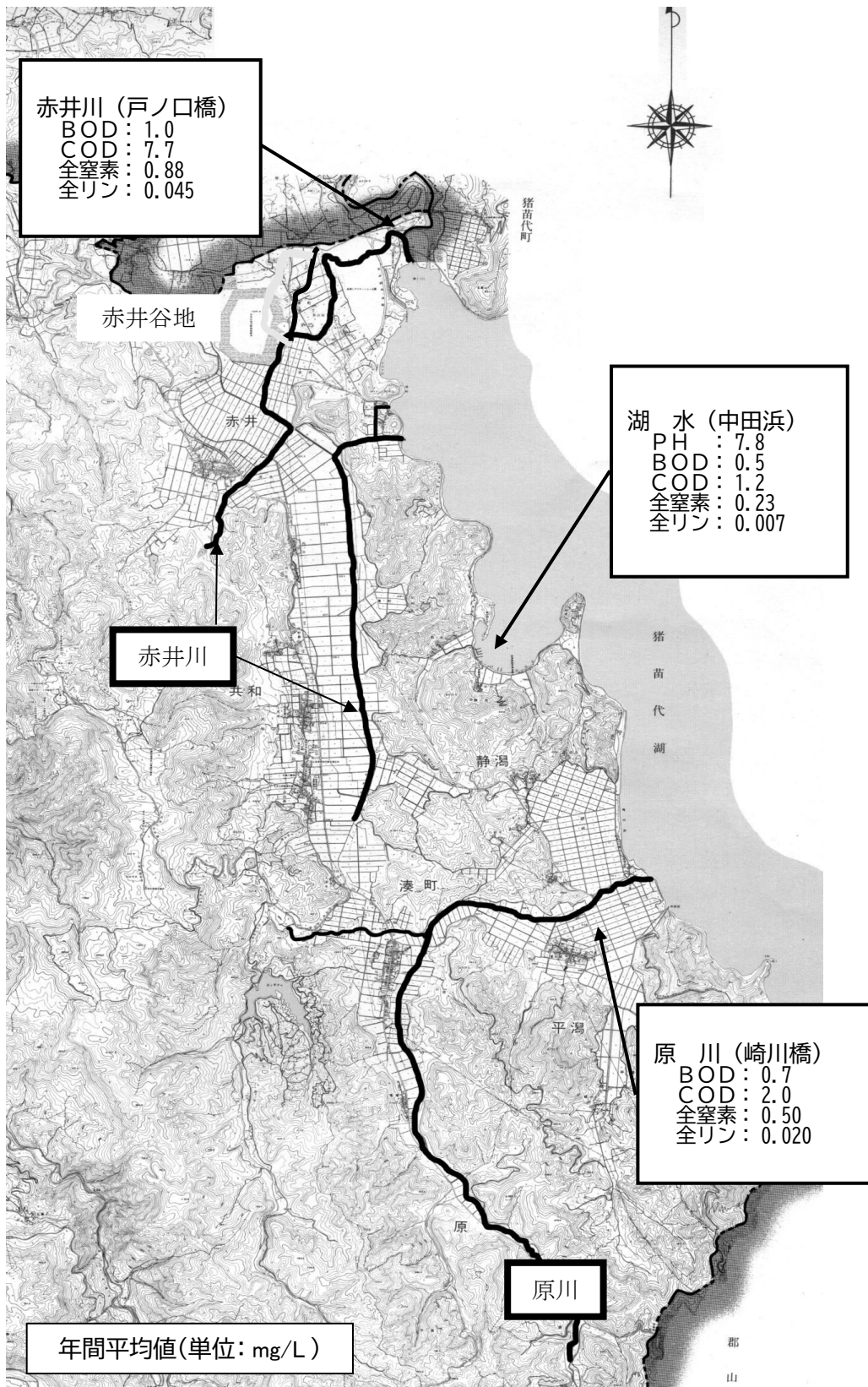


河川の場合はBOD、湖沼や海域の場合はCODを用いて水質を評価します



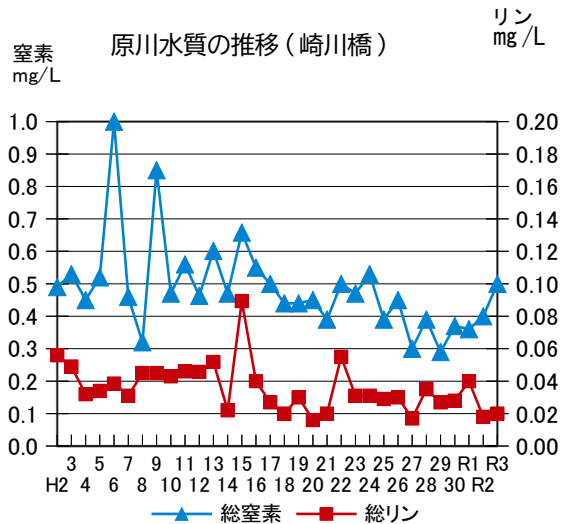
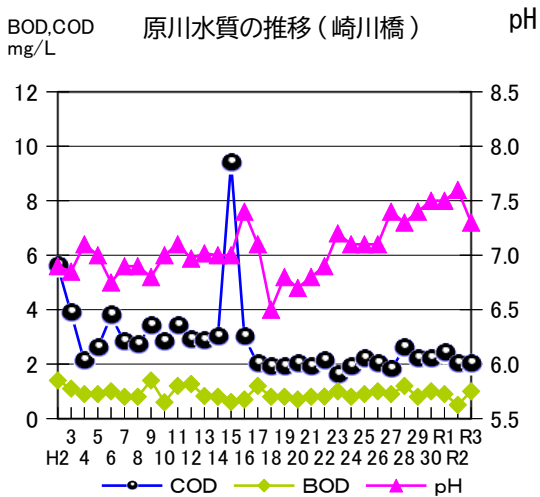
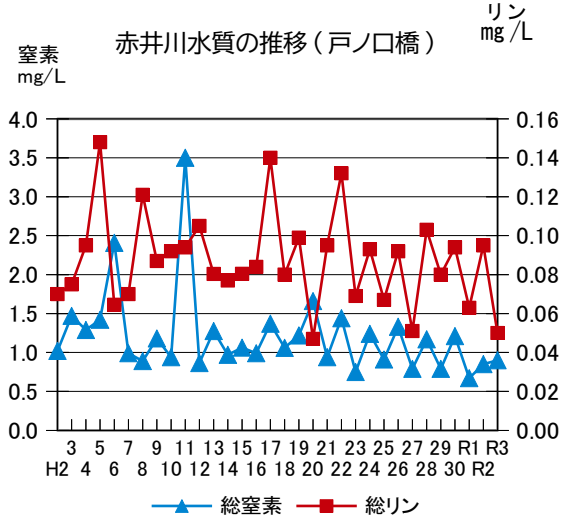
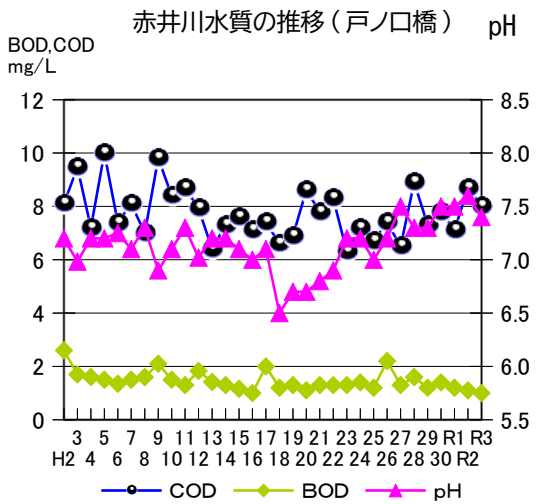
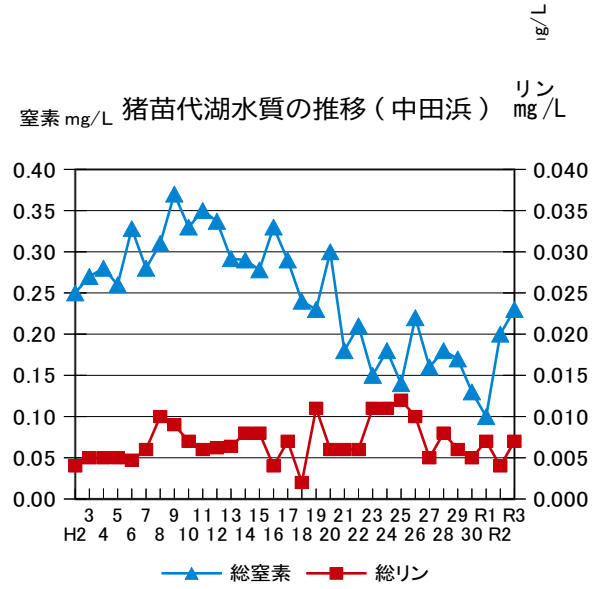
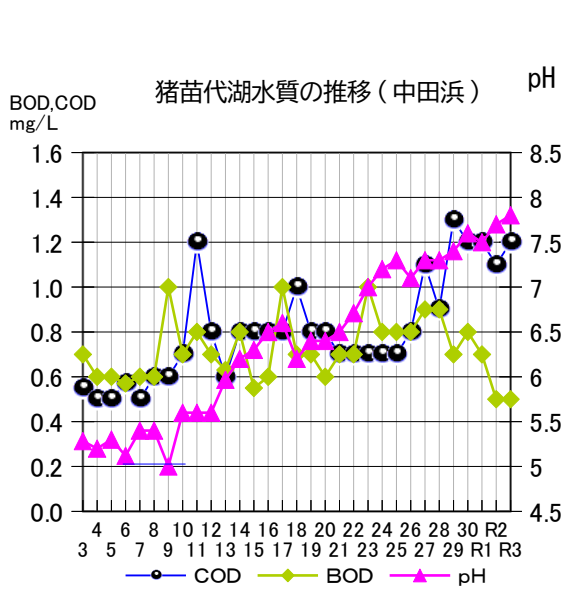
市水環境キャラクター
みずくん・たまちゃん

◆令和3年度 猪苗代湖流入河川等水質調査結果



(関連資料 : 109 ページ 資料9)

◆猪苗代湖および流入河川の水質経年変化(年間平均値)

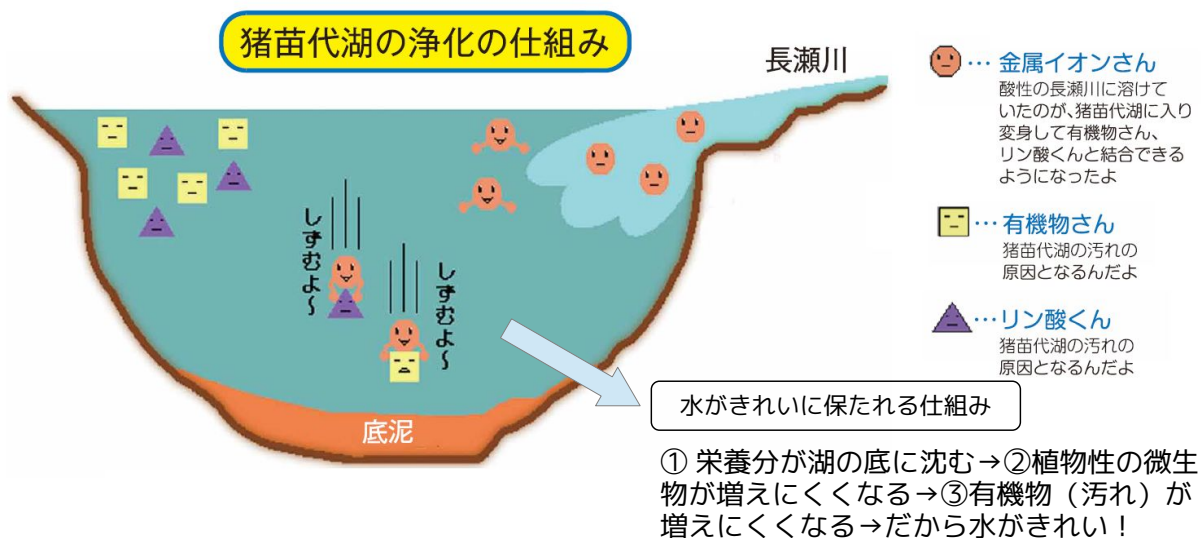


7 猪苗代湖の現状

(1) 自然の浄化作用

猪苗代湖には、猪苗代町の北部から流れる酸川（すかわ）が長瀬川と合流して流れ込んでいますが、酸川の水は強酸性で、鉄やアルミニウム等の金属イオンが溶け込んでいます。

猪苗代湖に入ると、それまで溶けていた金属イオンが形を変えて、有機物（汚れ）やリン酸（植物の栄養）と結びつき、湖の底に沈みます。この自然の浄化作用により、猪苗代湖の水質が良好に保たれていると考えられています（下図参照）。



【酸川の特徴】

長瀬川の支流の一つで、かつての硫黄鉱山からの地下水や、沼尻・中ノ沢温泉の源泉の影響で強酸性（pH2）を示す河川です。見た目は透明で川原の石もきれいですが、強酸性のため鉄やアルミニウムなど様々な金属イオンを含んでいます。



酸川

【長瀬川の特徴】

裏磐梯から猪苗代湖に流入している河川です。猪苗代湖に流入する水の約40%が長瀬川から入っています。途中で酸川と合流し、酸性成分を湖に運んでいます。合流直後は、中和により酸性度が下がり（pH3～4）、鉄イオンが固体化するため、川原の石に鉄分が付着し茶色に染まっています。



長瀬川

参考

【福島県猪苗代湖及び裏磐梯湖沼群の水環境の保全に関する条例】

福島県では、水環境悪化を未然に防止し、将来に渡って良好な水環境を保全していくため、平成14年3月に「福島県猪苗代湖及び裏磐梯湖沼群の水環境の保全に関する条例」を制定しました。

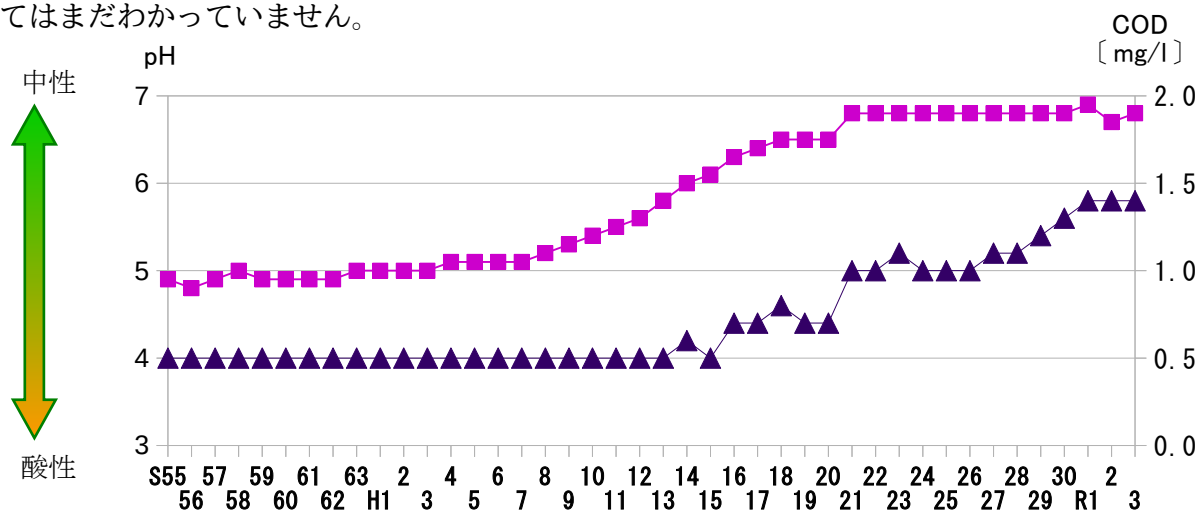
条例では、県民、事業者、行政の責務や富栄養化を防止するための窒素・リンの排出規制など、水質汚濁防止のための各種規制等が盛り込まれています。

排出規制値は、霞ヶ浦など富栄養湖に対する基準値と同等の厳しいものになっています。

(2) pHの中性化

pH 5 前後の弱酸性を保ってきた猪苗代湖ですが、平成8年頃からpHが上昇しはじめ、平成21年度以降はpHは6.8、令和3年度はpHが6.8となり、中性化してきています。

猪苗代湖が中性化した原因は様々考えられ、その一つとして、酸川（猪苗代湖に流入する長瀬川の支流）に含まれている酸の量が減ったことが考えられていますが、詳細についてはまだわかっていません。



■猪苗代湖心の水質変化（CODの上昇）

猪苗代湖の中性化に伴い、湖水の汚れを現す指標であるCODの値も上昇傾向にあります。これは、猪苗代湖の自然の浄化作用の低下や湖内における生産（プランクトン等の水生生物の繁殖）の増大などが考えられます。水質が悪化することが懸念されるため、県や流域市町村等では水質改善に向けて様々な取組を行ってきました。市では、今後とも継続的に水質改善に取り組んでいきます。

【水質改善の取組例】

- 猪苗代湖上流域での下水道や高度処理合併浄化槽の普及促進
- 猪苗代湖岸の清掃や漂着水草・ヒシのボランティアによる回収
- 水環境にやさしい農業の推進 など

(3) 全国湖沼水質ランキング（ベスト5）について

猪苗代湖は、環境省発表の公共用水域水質測定結果による湖沼の水質ランキング（ベスト5※平成28年度以前はCOD値、大腸菌群数などによりランク付け。平成29年度以降はCOD値のみによりランク付け。）において、平成14年から17年の4年間は1位でしたが、その後、平成20年度以外はCOD値の増加や大腸菌群数の環境基準超過によりベスト5外となっています。近年のCOD値のみによるランキングは以下のとおりです。

平成29年8位、平成30年度14位、令和元年度15位、令和2年度14位、令和3年度18位

(4) 湖沼の環境基準について

国では当初、環境基準として大腸菌群数を採用していましたが、近年、大腸菌を検出する技術が進歩し、ふん便汚染によるものと、土壌等の自然界にいるものを分けて検出することができるようになったため、令和4年4月から基準を大腸菌群数から大腸菌数に見直しました。なお、猪苗代湖で検出される大腸菌群については、ほとんどが自然由来であることが判明しています。